茨木市立西河原小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成２９年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」をさらに深化していく	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小 ・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取り組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小 ・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取り組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○グローイングアッププラン３年間の総括・検証 ○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小 ・太田中公開授業 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取り組み ・指導法共同研究 ○他教科・校種間連携 ・１つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施

確かな学力の育成	基礎学力や学ぶ意欲を持ち、書いたり交流したりして、学びを深めることができる子どもの育成	授業改善 ・西河原スタンダードを基にした、問題解決型の授業の徹底 主体的・対話的・深い学びの授業づくりの共有化 ・系統性を持った授業づくり ・研究授業・校内研修会 国語、算数、道徳、英語、体育 国語力の育成 ・「書く力」の育成 日記や作文など ・語彙力の向上 基礎力テスト（年２回）の実施 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・学習理解を深めるための ICT 機器を活用した授業 ・辞書の活用 ・漢字一行練習 ・ひらがなチェック（年２回） ・読書活動推進 ・読書ノートの活用 ・読書タイム 図書委員による読み聞かせ お話ボランティアによる お話会（年８回） 夏休みの図書館開放 読書週間（年２回） 算数 ・問題解決型の授業で 思考力・活用力を育成する。 ・算数診断テストの実施・活用 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・学習室での補充学習 ・夏休み、放課後の個別学習会 英語 ・校内研修会の実施 ・太田中学校小中連携教員による 英語授業（月に２回程度） 英語モジュール学習（高学年） の研究 家庭学習 ・宿題ﾌﾟﾘﾝﾄの工夫改善 ・「家庭学習がんばり週間」 の実施（学期に１回） ・音読カード ・計算カード（低学年）	授業改善 ・西河原スタンダードを基にした、問題解決型の授業の発展 主体的・対話的・深い学びの授業づくりの検証・改善 ・系統性を持った授業づくり ・研究授業・校内研修会 国語、算数、道徳、英語 国語力の育成 ・「書く力」の育成 日記や作文など ・語彙力の向上 基礎力テスト（年２回）の実施 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・ICT 機器を活用した授業の 検証・改善 ・辞書の活用 ・漢字一行練習 ・ひらがなチェック（年２回） ・読書活動推進 ・読書ノートの活用 ・読書タイム 図書委員による読み聞かせ お話ボランティアによる お話会（年８回） 夏休みの図書館開放 読書週間（年２回） 算数 ・問題解決型の授業の研究、実践に努め、思考力・活用力を育成する。 ・算数診断テストの実施・活用 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・学習室での補充学習の徹底 ・夏休み、放課後の個別学習会 英語 ・校内研修会の実施 ・太田中学校小中連携教員による 英語授業（月に２回程度） 英語モジュール学習（高学年） の実践、および研究・研修 中学年の外国語活動の 実践、および研究・研修 家庭学習 ・宿題ﾌﾟﾘﾝﾄ成果検証、家庭との共有 ・「家庭学習がんばり週間」 の実施（学期に１回） ・音読カード ・計算カード（低学年）	授業改善 ・西河原スタンダードの検証 問題解決型の授業 主体的・対話的・深い学びの授業づくりの定着 ・系統性を持った授業づくり ・研究授業・校内研修会 国語、算数、英語 国語力の育成 ・「書く力」の育成 日記や作文など ・語彙力の向上 基礎力テスト（年２回）の実施 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・ICT 機器を活用した 効果的な学習支援の授業 ・辞書の活用 ・漢字一行練習 ・ひらがなチェック（年２回） ・読書活動推進 ・読書ノートの活用 ・読書タイム 図書委員による読み聞かせ お話ボランティアによる お話会（年８回） 夏休みの図書館開放 読書週間（年３回） 算数 ・問題解決型の授業の研究、実践をさらに進め、思考力・活用力を育成する。 ・算数診断テストの実施・活用 ・基礎学習（のびのびタイム） モジュール（朝学習） ・学習室での補充学習成果検証 ・夏休み、放課後の個別学習会 英語 ・校内研修会の実施 ・太田中学校小中連携教員による 英語授業（月に２回程度） 英語モジュール学習（高学年） の実践、および研究・研修 中学年の外国語活動の 実践、および研究・研修 家庭学習 ・宿題ﾌﾟﾘﾝﾄ　成果検証　改善 ・「家庭学習がんばり週間」 の実施（学期に１回） ・音読カード ・計算カード（低学年）

豊かな人間性を育む	自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成	道徳教育 ・道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉の作成・実施・検証 ・考え、議論する道徳の研究 ・めざす子ども像の共有 ・多様な指導方法の研究 ・校内研修会、校内研究授業 主体的、対話的、深い学びの授業づくり 人権学習 ・集団づくり （学級・学年集団、学習集団） 研修会（春・夏） 講師を呼んでの研修会 ・平和学習 ・多文化共生教育 ・部落問題学習 ・障がい児教育等	道徳教育 ・道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉の実施・検証・改善 ・考え、議論する道徳の実践 ・めざす子ども像の共有 ・多様な指導方法の研究・実践 ・校内研修会、校内研究授業 主体的、対話的、深い学びの授業づくりをさらに進める 人権学習 ・集団づくり （学級・学年集団、学習集団） 研修会（春・夏） ・平和学習 ・多文化共生教育 ・部落問題学習 ・障がい児教育等	道徳教育 ・道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉の実施・検証・改善 ・考え、議論する道徳の実践 ・めざす子ども像の共有 ・多様な指導方法の研究・実践 ・校内研修会、校内研究授業 主体的、対話的、深い学びの授業づくりを深める。 人権学習 ・集団づくり （学級・学年集団、学習集団） 研修会（春・夏） ・平和学習 ・多文化共生教育 ・部落問題学習 ・障がい児教育等
健康・体力の増進	運動に親しみを持って、自ら運動しようとする子どもの育成	アンケート実施 （体育に対するイメージ調査） ※授業改善 ・日々の運動習慣につなげる授業づくり ・体力向上プロジェクト 公開授業の活用 ・茨木っ子運動の活用 ※体力向上、運動能力向上の楽しい取組みの継続 ・マラソンチャレンジ ・なわとびチャレンジ （チャレンジカード作成） ・スポーツテストのふり返り、冊子づくり ※体育委員会の活動とリンクした遊び活動 ・休み時間を利用した全学年合同遊び ・代表委員会による「全校こおり鬼」 ※保護者への啓発 健康維持や体力向上への意識向上を図る ・全学年で食育実施	運動が好きな子を増やす ※授業改善 ・いろいろな種目への挑戦 ・校内実技研修会実施 ・ゲーム・ボール運動の充実 ・様々な球技において、難易度に応じたボールの使用 ※体力向上、運動能力向上の楽しい取組みの継続 ・スポーツテストのふり返り、冊子づくり ・フレンドクラスを利用したなわとび大会 ・低中高でのマラソン大会 ※保護者への啓発 運動習慣づくりの大切さ ・平日放課後の校庭開放 ※食育授業実施 ・「朝ごはんの大切さ」 ・「野菜を食べよう」 ・「栄養バランスのとれたお弁当づくり」	「運動が好き」といえる子を増やす ※授業改善 ・体力向上の研究授業の公開 ※体力向上・運動能力向上 ・外遊びの推奨 ・体育委員会による「全校球技大会」 ・全校マラソンの実施 ・なわとびチャレンジ ・スポーツテストのふり返り、冊子づくり ※食育授業実施 ・「朝ごはんの大切さ」 ・「野菜を食べよう」 ・「栄養バランスのとれたお弁当づくり」 ※3か年計画の取組みの総括 ・スポーツテストの結果から ・次期3か年計画に向けての方向性を定める
支 援 教 育 の 充 実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A
（領域ごと）
①話すこと・聞くこと
課題が残る結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
課題が残る結果であった

④言語事項
やや課題が残る結果であった

（問題形式）
①選択式
やや課題が残る結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
設問７（6）漢字を読む　しじ
・もっとも正答率の低かった設問
設問７（1）漢字を書く　参加たいしょう
・もっとも無解答率の高かった設問
設問４俳句の情景を捉える　設問６古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む
設問７（5）漢字を書く　はこが置いてある
・もっとも無解答率の低かった設問など
６つの設問で無解答率が０％であった。解答への意欲が感じられる結果であった。

国語B
（領域ごと）
①話すこと・聞くこと
課題が残る結果であった

②書くこと
課題が残る結果であった

③読むこと
課題が残る結果であった

（問題形式）
①選択式
やや課題が残る結果であった

②短答式
課題が残る結果であった

③記述式
課題が残る結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
目的や意図に応じ、引用して書く
・もっとも正答率の低かった設問
自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。
・もっとも無解答率の高かった設問
物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる
・もっとも無解答率の低かった設問など
動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す
目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える

分析

国語Ａでは、書くことが概ね良好な結果であった。これは手紙の構成を理解し、後付けを書くことの基本的な知識・技能が身についていたからである。

国語Ａ・Ｂを通して話すこと、聞くこと、読むことに課題が残る結果であった。目的や意図、場に応じ適切な言葉遣いで話すこと、内容の中心を明確にして書くこと、俳句の情景を捉えること、古文を楽しみながら読むこと、物語を読み、具体的な叙述から理由を明確にして自分の考えをまとめること等に課題があることがあきらかになった。全学年を通して国語の授業はもちろん、各教科、総合的な学習、一分間スピーチ、日記、作文、読書指導など教育活動全般、日常生活において全校でこれらの課題に取り組んでいきたい。本校や太田中校区で大切にしている「書く力の育成」「語彙力の向上」にも引き続き取り組んでいきたい。

○●算数●○

算数A

（領域ごと）

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

やや課題が残る結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

設問１（１）リボンを２m買ったときの代金と３m買ったときの代金を求める問題

・もっとも正答率の低かった設問

設問６．円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題

・もっとも無解答率の高かった設問

設問９（２）二次元表の合計欄に入る数を書く問題

・もっとも無解答率の低かった設問

７つ設問で無解答率が０％であった。無回答の割合が減少してきている。

算数B

（領域ごと）

①数と計算

やや課題が残る結果であった

②量と測定

課題が残る結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

やや課題が残る結果であった

（問題形式）

①　選択式

やや課題が残る結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

③記述式

やや課題が残る結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

設問１

（１）カードの差が４の場合の２けたの引き算の式と答えを書く問題

（２）示された考えを基に 54－45 の場合で残る部分を図に表す問題

・もっとも正答率の低かった設問

設問５（２）与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い効果を選び、選んだわけを書く問題

・もっとも無解答率の高かった設問

設問１（３）２けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く問題

・もっとも無解答率の低かった設問

設問３（１）平均を求める問題

設問４（１）示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題

分析

算数Ａでは、図形分野以外の領域、問題形式で概ね良好な結果であった。基礎的、基本的な知識・技能が身についてきていると言える。図形領域においては、正多角形の構成・分類などの活動を通して、正多角形の性質を見出したり振り返ったりすることによりその性質の理解ができるようにしていく必要がある。

算数Ｂでは、やや課題が残る結果となった。特に正答率の低かった問題は数量関係領域の割合の問題である。身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。そのため、基本的な知識・技能を生活の場において活用できる力をつけること。また、判断した理由や問題を解決した過程を数学的に表現することができる力をつけていく必要がある。日々の学習の中で、自分の考えを振り返り、事柄が成り立つことの説明として必要な根拠を考え、よりよい説明ができるよう、全学年を通して問題解決学習の充実、書く力の育成を進めていく必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・無解答率については、前年から引き続き減少傾向にあり、意欲的に問題に取り組むことのできる児童が増えてきており、プランの取組みの成果が表れている。

・10 年を通してみると、国語、算数ともに B 問題の正答率が低く課題となっている。基本的な知識や技能を活用・応用する力をつける必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・国語も算数も共に A 問題の平均正答率が 20%以下の児童が 0 人となっており、昨年と比べて改善が見られた。日頃からの取組みにより基礎基本の学力が定着してきた成果が表れていると考える。

・学力高位層は昨年に比べ減少した。今後は、きめ細やかな学力補充の指導を行いながら、発展問題なども授業で取り入れて、学力の向上を目指していく。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業改善

・研究授業・校内研修会の実施
　国語・道徳・外国語・体育

・支援教育研修会の実施

・問題解決学習の追求
　全教科で「めあて」を明確にし、「振り返り」を大切にした授業づくりを行なっていく。

・ホワイトボードを活用した授業づくり
　自分の考えやグループの考えを表現し、視覚化し、共有するツールとしてホワイトボードを活用する。
　学び合いとファシリテーションで主体的・対話的な子どもを育てる。

② 学力低位層を減らす取組み

・のびのびタイムの実施
　国語、算数の基礎基本の定着を目指す。校内全教師による入り込み指導体制の確立。

・補充学習の充実
　課題の残った児童に対して授業時間外での補充学習を行う
　学習室での自主学習（児童が自ら分からないことを聞きに来ることができる環境づくり）
　長期休み、支援を必要とする児童への個別学習会の実施
　水曜日放課後学習会（いばらきっ子スタディ学習会）の実施

③ 家庭との連携

・家庭学習がんばり週間の実施
　家庭学習の定着・充実を図るため毎学期 1 回実施する。
　宿題提出率 100%達成を目指す。
　保護者へ家庭学習を啓発するプリントを配布する。

・学校だより、学年だより、ホームページにて学校の取組み、児童の頑張りを具体的に伝える

④ 保幼小中連携

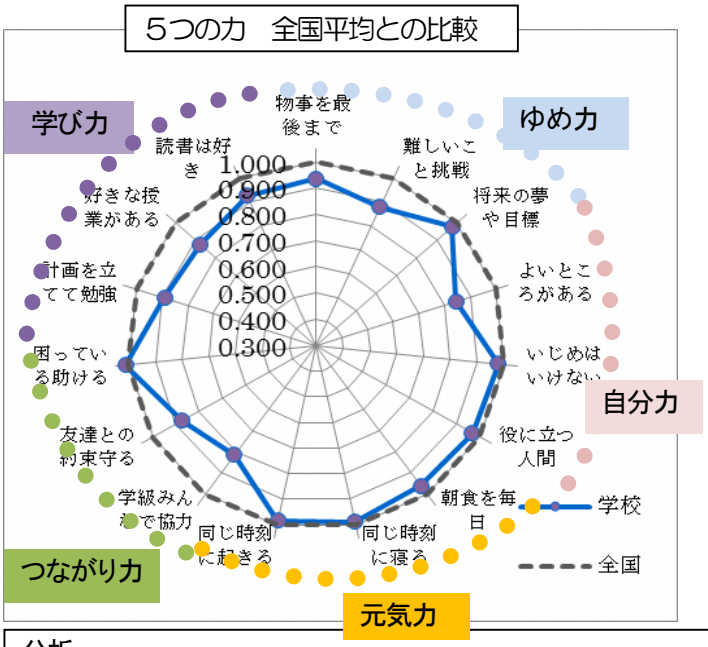
・合同研修会の実施
　中学校ブロックで連携してブロックの課題解決について話し合う
　連携カリキュラムの実施・検証・改善

・幼小中合同授業研究会の実施
　各校での研究授業を公開し、お互いに交流し授業改善を行っていく

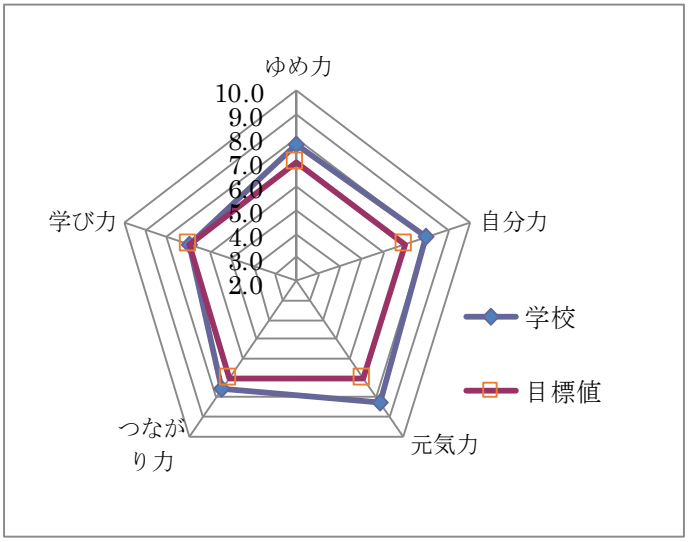
・連携コーディネーターによる授業連携（外国語等）

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



分析

今年度の結果について

・茨木市のめざす「子どもたちに育みたい力」を概ね上回る結果となった。
・ゆめ力については、委員会活動や係仕事などを通して物事に粘り強く取り組む意欲をはぐくむ必要がある。
・自分力については良好な結果となったが、「よいところがある」が少し低い結果となった。自尊感情を高め、集団内におけるや自己有用感を育む必要がある。
・元気力についてはすこし高い結果となった。家庭との連携や保健指導、継続的な学級指導により児童の生活習慣に対する意識が高まった結果である。
・「地域行事に参加」は全国平均を大きく上回り、学校が地域にしっかり支えられていることが分かる。
・学び力については、全国平均を下回る結果となった。
・読書が「好き」な児童は全国平均を下回る結果となった。

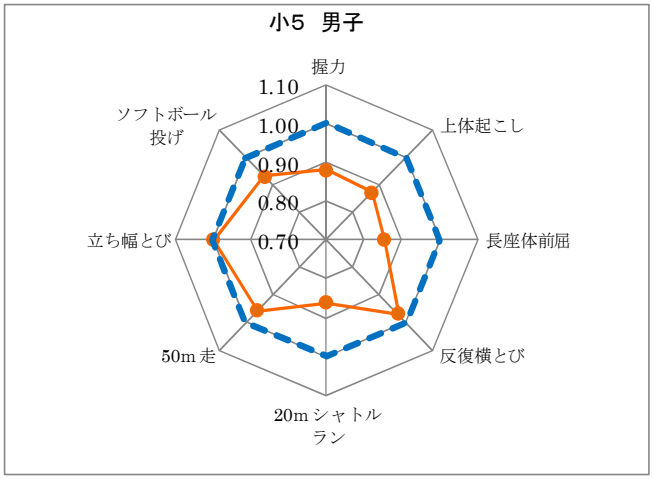
取組み

・ゆめ力については、教科学習の基礎基本の徹底をはかり、発展的な考えにつなげる必要がある。
・自分力については、総合の学習の時間や特別活動、道徳の時間などを活用し、自尊感情を高め、集団内におけるや自己有用感を育む。
・学び力については、茨木っ子グローイングアッププランにそって、学校全体で学力向上に計画的に取り組んでく。
・読書が「好き」な児童がより一層増えるよう、図書館支援員を中心に図書室の充実を図る。
・「元気力」については今後もより良い習慣作りが続けられるよう、学校全体で取り組んでいく。
・３年～６年算数の授業は基本的に習熟度別１クラス２分割でおこなう。
・授業中や休み時間など、学習サポーターによる、つまずきへの個に応じた支援を行う。
・子どもたちが授業で「わかった」と達成感をもてるよう、振り返りをするとともに、国語・算数を中心にPDCAサイクル（Plan計画→Do実行→Check評価→Act改善）を基にした授業改善をすすめる。
・本年度はセンチュリー交響楽団に来て頂き、全校児童で傾聴した。児童の情操に働きかけながら、専門的な職業の人に出会う機会を設け、子どもたちに将来への夢を意識させ、学習意欲を高めていく。
・人権教育・道徳教育を大切にし、互いを尊重し、高め合うことができる集団づくりをすすめる。
・児童会活動を中心にして学校生活のルール、あいさつなどの徹底を図る。
・地域行事に教職員も積極的に関わることで地域・家庭との連携をすすめる。
・家庭での朝食、日々の過ごし方やスマホの使用ルールなどを検証し、保護者とともに家庭学習の時間を拡充する。
・家庭・地域や他の小中学校と自己肯定感を高める取組みを連携、共有し、自信をもって何事にも挑戦する子ども、夢や目標を語り、追いかける子どもたちを育てる。

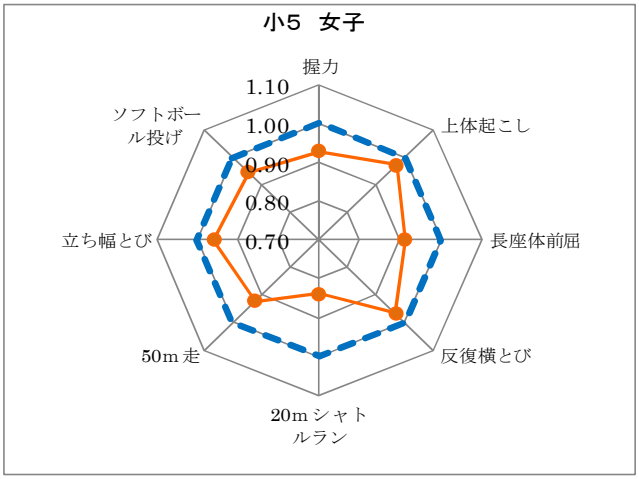
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

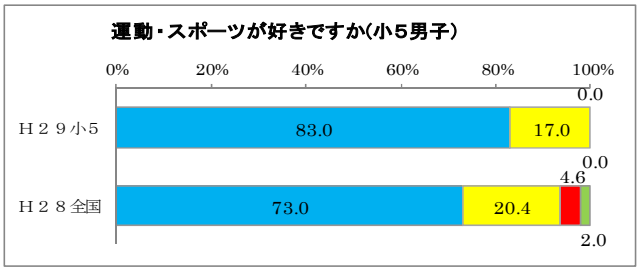
○●体力●○

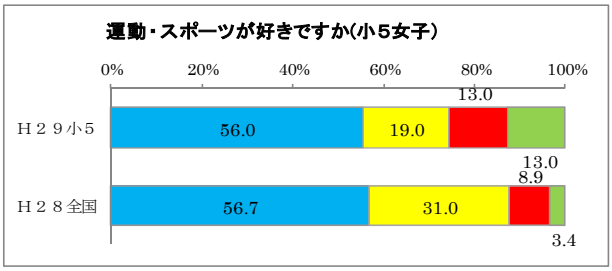
男子（小5）



女子（小5）









分析

全ての項目において、全国平均と比較すると課題が見られる。
5年生男子は、立ち幅跳び、５０メートル走、反復横跳びにおいては全国平均値に比較的近い結果となった。瞬発力の分野においては、平均的な力が備わっているが、長座体前屈、上体起こし、２０メートルシャトルランなどは全国平均よりも大きく下回っている。上半身の筋力や持久力、柔軟性に課題が見られる。
5年生女子は、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びにおいては、全国平均値に比較的近い結果となった。２０メートルシャトルランは全国平均よりも大きく下回っている。また、男女共に、持久力に課題があるため、なわとびやマラソンなどに取り組む必要がある。
引き続き低学年から基礎的な体力づくり、運動習慣づくりを図る必要がある。

取組み

・体育の授業において茨木っ子運動の取組み
・授業において工夫した体力づくりの運動
・持久力を養う運動（全校マラソン）の実施
・学校全体で大縄跳びに挑戦
・休み時間にクラスのみんなで体を動かす遊びをする日を設ける
・体を使った外遊びの奨励
・雨の日の体育館解放
・なわとびカードを（低・中・高）別に作成し活用